よらりからり。 ユラリ〳〵シテ、事ノ捗取ラヌサマ。「——て、仕事もしない」

よろ—りと。 ぐな—りと。よろハ、眼瞬クノよろニシテ、大ニ疲レタルサマ。「——、な—つた」

りうと。 仰山に。隆とナリ。「——、にばる」「——、りぎむ」

り—つきと。 し—つかりと。律義ニヤ。「あそこでね、——、したらぢた」

わく〳〵と。 わな〳〵と。「寒くて、——、ふるはる」

わびで。 別して。「——、きよおね、寒ね」「——、んまね」

わさ〳〵ど。 又、**わさくさど。** わさ〳〵と。群リテ、這ヒ出スサマ。「虫ね、——、出て來た」

わざど。 ことさらに。「——、知らなねふりしてだ」

わさ〳〵。 又、**わざに。** 又、**わざさら。** わざに。其ノ事ノミノ爲ニ。「——、ね—つて來た」

わしらに。 慰みに。いたづらに。惡さにノ訛リナリ。「——、食う」「——、書ぐ」「——、ゆ—つた」

わにくにて。 赤子ノ、見慣レヌ人ヲ見テ、否ガルサマ。自動詞わにるヲ見ヨ。「——、愛らしぐなね」

われかちと。 我勝とナリ。「——、取る」「——、逃る」

三、分量度合

あまり。 又、**あんまり。** あまり。「——、長ねがら切る」「——、衣裳(エショ)きた程におもだね」挿頭抄ニ、左ノ如ク云〳〵リ。

おいらくの、命のあまり、長くして君にふたゝび、別れぬるかな、

住みわびて、身をかくすべき、山里に、あまりくまなき、夜半の月かな。

命は長く、月はくまなきが、よき事なれど、ぼどに過ぎて、惡しきなり。又、

さみだれは、まやの軒端の、雨そゝぎ、あまりなるまで、ぬるゝ袖かな、

物思ふ、心のひまも、なかれとや、あまりしぐるゝ、夕暮の空、

これらは、よき事にはあらねど、程に過ぎたることを、強く云はんとてよめり。（中略）又、程に過ぎて、あやしきにはあらねど、

いかにいかゞ、數へやるべき、八千年の、あまり久しき、君がみよをば、

あまり久しくて、數ふる勝手にあしきよしを、物狂はしきやうに、よめるなり。（下略）

右ノ五ツノあまりヲ、同書ニ、あんまりト、口語ニ譯セリ。前ノ二例ノあまりハ、全ク、之ニ同シク、度ニ過ギテ、惡シキ意ナリ。

あまり。 又、**あんまり。** 至極。「——、えね天氣たがら、山に往んべ」宜シト承諾スルコトヲモ、——えねト云フ。ソレデヨシト云フ程ノ意ナリ。コノあまりハ、前條ノあまりト反對ニ、度ニ過ギ、或ハ、意外ニ善キ形容ナリ。「——、えね天氣たがら」ハ、惡シカルベシト豫想セル天氣ノ、意外ニ善キヲ云フナリ。コレヨリ、宜シト承諾スルコトヲモ、輕ク、あまりヲ副フルナリ。

あまりばぢごど。 あまるほど。「——ありながら、人にくれなね」

あらかにさらかに。 ありたげ。あらがねハ、あらがひノ轉ニテ、爭フコトナリ。さらかにハ、淩ヒナリ。アサリサラフコトナリ。サレバ、コノ語ノ主意ハ、さらがひニアリテ、あらがひハ、語ノ類セルヨリ、語勢ヲ強ムルガ爲ニ、被ラセタルナリ。「——、だし

てしまーつた」

にがに。 澤山。「——、人あにだ」又、にがにごどト云フ。「——、頂戴して」

にーつかね。 一向。如何(イカ)なナリ。「——、聽ぐもんでなに」

にーつち。 一番最も。「イチ」ヲ促メタルナリ。「——、えに」

「——、あどになーつた」越後地方ニテモ云フ。

にーつばに。 澤山。「盃ナリ。食物ヲ、食器ニ盛リ滿シタルヲ、一盃ト云フヨリ、食物ナラデモ、澤山ト云フ義ニ用フ。「——、くに」「——、下(クダ)ーつて御笑止だ」童語ニハ、おーつばにト云フ。又、「この仕事あ、三月——、懸んべに」ナド云フコトアリ。コレハ、三月中ノ意ナリ。又、「水お桶に汲んで、——になーつた」コレハ、充滿シタルコトナリ。是レ、前二義ノ根源ナリ

にまーつど。 又、**まつど。** もーつと。今些(イマヨコ)ヲ促メタルナリ。ちヨつト音便ニ促ムルコト、其ノ例多シ。待ちて、立ちて、勝ちてヲ、まーつて、たーつて、かーつてト云フガ如シ。もーつとハ、まーつとノ轉ナリ。「——、下(クダ)に」「——、えになあ無にが」

うんと。 十分。物ヲ扛擧スルトキノ懸聲ニ、うんとト云フコトアリ。之ヨリ、力ヲ極ムル形容ニ、うんとト云ヒテ、十分、又、澤山ト云フ義ノ副詞トス。「——、食ーつた」「——、寐だ」

にまげに。 其上に。加之ノ義。「物あ奪(ト)られ、——、たゞがーつぢーや」

かにしぎ。 すーつかり。皆式(カイシキ)ナリ。「——、持ーつて往ーつた」「——、世話してる」

がーつかり。 非常に。「——、ちから」「——、ちから落した」

がーつさり。 どーつさり。「——、色あおぢだ」

がーつてもなど。 無益に。つまらなく。合點(ガッテン)も無くナリ。「——、さわく」「——、うづぐしい」

かなかな。 僅に。やーつと。名詞、雜ノ部、かなーつばしノ條ヲ見ルベシ。「——、澤山だ」

がばり。 澤山。空所ノ生ズル程、澤山ト云フ程ノ意ナリ。「——、食ーつた」「——、へーつた」コレヨリ、廣ク、非常にト云フ義ニ用フ。「——、おどーつた」

からきり。 又、**からーつきり。** からーつきし。すーつかり。虚切(カラキリ)ナリ。後ニ出セル、だにさりニ同ジ。「——、なぐなーつた」「——、知らなに」

きらーりど。 又、**きらーつど。** さーつぱりと。「腹のにだみあ、——、なぐなーつた」「病氣あ、——、よぐなーつた」「きかなに奴てあーつたか、——、なおーつた」

ぎらーりど。 又、**ぎらーつど。** がらーりと。今迄、親シク交レルモノ、或ル事情ノ爲ニ、全ク、疎遠ニナレルトキナド、「あにづあ、——、來なぐーなつた」ト云フ。又、「——、むちげる」ト云フハ、ぐつと曲(ムガ)れるナリ。

ぎりく。 出來るだけ。際疾(キハド)キ所迄、勉强辛抱スル。ナリ。「ねたんお、——、まげろ」又、舌ニ、强ク感ズル形容。「——、しーよーつばに」鹹(シホカラ)キニ限リテ云フ。

これだに。 又、**これだにに。** 非常に。「——、立派だ」「——、雪あたまーつた」

こーつつぐだま。 又、**こーつばにだま。** 又、**こーつばにしたま。** でーつしり。「——、くーつた」「——、盛ーつた」こーつつぐハ、小衝、こーつばにハ、小一盃ノ略、たまハ束(ボク)ナリ。カク云フ故ハ、前ニ擧ゲタルガ如ク、帶ヲ餘リ上ニ結ビ、又ハ、子供ヲ餘リ上ニ背負フコトヲ、てんつぐたまに云々ト云フ。此ノ意ハ、

天衝束ニシテ、彼是對照スレバ、其ノ義ノ、相同ジケレバナリ。又、後ニ擧ゲタル、しこだま、も一つこぐだま（意義ハ、各其ノ條下ニアリ。）ノたまモ、亦束ニテ、皆量ノ多キヲ云スナリ。

こてら。又、**こて。**大略。大抵。小平ニテ、平面ニ少シ及バヌナリ。こだひらノだひヲ、でト云フヤウノ例、他ニ多シ。ないヲねえ、大分ヲでいぶト云フ類ノ如シ。「――、一升もある」「――、間に合んべ」

ころ一りと。又、**ころ一つと。**又、**ころ〳〵。**とんと。又、まるで。全キコトヲ、ころ一つとト云フ。即チ、一棟ヲナセル家ヲ、ころおど家ト云フ是レナリ。完全シタル衣服ヲ、ころ一つとした着物ト云フモ、之ノ意ナリ。又、「着物――、一づ」ト云フトキハ、全ク一ツノ意ナリ。ころ〳〵ハ、全々ナリ。「――、忘れた」ころ一りと。又、ころつとなお一つた」又、こり一つとトモ云フ。「この間あ、――、來ない」

さに〳〵。時々。再々ナリ。「――、來る」「――、參上した」

さ一つぱり。一向。ち一つとも。「――、頓着ない」「――、知らない」

さんぐ。又、**さんさ。**又、**さんさとんさ。**十分。散々ナリ。こんざハ、語勢ヲ強ムル爲ニ、添ヘタルノミ。「人お、――、わるぐゆう」「人の金、――、使一つた」

さんとあさんとに。三度毎に。三度は三度にナリ。食事ノ三度毎ニナリ。「――、んまいものく一つてる」

しこだま。又、**しこぐだま。**で一つしり。爲括束ノ轉ニシテ、夥多ノ義。「――、食一つた」「――、持つてこい」

しし一やますほど。しやうのない程。爲餘ス程澤山。「――、に一つばいある」

したでこだてあないほど。しやうのない程。「――、ある」

し一つぱり。夥しく。「――、もおが一つた」「――、かゝ一つた」「――、も一つてだ」和訓桀ニ、しば〳〵ノ意ヨリ轉ゼルナルベシ。切ノ字ノ意ナリトアリ。

し一よ一つこも一つこ。どうしても。し一よ一つこハ、其所、も一つこノもハ、其所もト續クもニシテ、其所も此所もト云フ語ヲ促メテ、そ一つこもこ一つこもト云ヒ、次ニ、其ノ句讀ヲ誤リテ、上ノ如クニ、轉ゼルナリ。「こどしあ、――、わるい」惡シキ方ニノミ、副ヘテ云フ。

ずんど。至て。「――、えいきて」

ずかに。そんなに。「――、も一つてこなくてもえい」「――、ひとぐない」「――あ、知らない」其位にノれヲ去リ、ぐらヲ約昔トシテガトシ、サテ上ノ如ク用ヒ、それほどノ義ニ使フ。

ずらほど。それほど。それノれヲ、なト通ジタリ。此ト同ジク、あれほどヲ、あらほとト云フ。「――、知一つてないから」「――、しいづなぐあ」

だにきり。す一つかり。臺切ナリ。前ノ、からさりニ同ジ。「――、なに」「――、わがんない」

たにへん。又、**たにへんに。**又、**たにりれ。**又、**たにりれに。**大層。いらい。「――、えい」「――、んまい」

たつけに。頻に。湍氣ニヲ促メタルカ。「川あ、――、なかれる」「――、來る」

たつた。唯。たゞヲ、促メタルナリ。「――、一つ」「――、今」

たつぷり。又、**たつぷりと。**十分。「――、ある」「――

—、つく」

たまに。又、たまあに。又、たまさが。又、たまさがに。たまに。「——、あう」「——、來る」

たんと。澤山。多分。「——、食う」「——、腹あやめるが」

ちいくと。又、ちくと。又、ちんと。少し。「——、吳ろ」「——、にだにょ おた」

ちんくと。少しづゝ。「——あげる」

づはくれ。又、づはくれに。又、づなしに。法外。出抜けて。づはくれハ、圖外れノ轉ナリ。づなしハ、圖無しナリ。「——、大ーつきい」

つるりと。又、つるーつと。奇麗に。殘らず。「一升の酒、——、飲んた」「あかにに—つばになもの、——、食ーつた」

てーつちり。又、でーつちり。十分。「——、五杯食ーつた」

てーつちりど。又、でーつちりど。十分に。「——、盛ーつた」

どーつくと。よくく。篤とチ、促メタルナリ。「——、うだでに」殆ド、前ノこくく〻ニ同ジ。但シ、こくく口說くト云フハ、口說クコトノ漆濃キナリ。

なんぼ。いくら。何程ノ轉ナリ。「——、ひとぐども」「——も、ある」

なんぼが。どんなにか。何程かノ轉ナリ。「——、ひとがんべ」「——、んまがんべ」

ねーつから。又、ねから。さーつぱり。根からナリ。「——、くわなに」「——、頓着なに」支ない一ノ意。「——、無に」

のーつしりど。又、のーつしり。十分。又、澤山。モトのーつしりハ、寛々ノ意ニテ、事ニ慣レテ、態度ノ寛

ヤカナル樣ヲ云フ語ナリ。方言どーつしりハ、即チコノ轉ナリ。「——、金ためだそれた」「——、雪あふーつた」

ばーつたど。はたと。はたヲ、促メタルナリ。「——、事あかげる」「——、こまる」

はんじ物位。極少しばかり。判じ物位ナリ。判じ物ハ、謎ノ意ヲ判スルナリ。是レ、僅カニ、其ノ物タルヲ知ルニ足ル微小ノ物ヲ、提供スルヨリ、極メテ少キヲ、シカ云フナリ。「——たげんても、上げる」又、名詞ニ用フ。「——しーやがしかの意無に」

ひーつとづ。一杯。一つヲ、促メタルナリ。「桶に、——、ある」「金あ、倉に、——あーつた」

ひとーつつも。ひとつも。一つもヲ、促メタルナリ。「——、なに」

ひとましりも。一睡も。一目交もナリ。眦ヲ、まじりト云ヘドモ、目尻ノ義ナレバ、コレトハ同ジカラズ。「——、ねむらんにーやに」

ふたんに。十分に。澤山に。分段同居ト云フ佛語ノ、分段ヲ轉ジタルナリ。分ハ、即チ分限。段ハ、即チ形段ナリ。六道ノ衆生、其ノ業力ノ感ズル所ニ隨ヒテ果報アリ。身ニハ則チ長有リ短有リ。命ニハ則チ壽アリ夭アリ。而シテ皆生死ニ流轉ス。故ニ、分段生死ト名ヅク。又、分段身ト云フコトアリ。則チ三界內、六道衆生受クル所ノ身、支形分段、長短巨細、各同ジカラズ。是レヲ分段身ト云フ。サレバ、分段ハ、此ノ世ニアル人衆ノ、果報ノ厚薄ニヨリテ、其ノ種類ノ、饒多ナルヲ云フ語ナリ。此レヨリ、夥多ナルコトヲ、ふたんトハ云ヘルナリ。「米あ、——、とれだ」「——、きものおきる」「湯水お、——、つく」

べろ-りと。 又、**べろ-つと。** 皆。す-つかり。元ハ、食物ヲ、ペロ〳〵ト、殘ラズ食フ形容。又ハ、物ノ皮ヲ剝グ形容ナドヨリ起リテ、何事ニモ、廣ク用フルニ至レルモノナリ。「——、食-つた」「——、むげだ」「——、持-つてこい」「どこお見でも、——、山た」

ま-つてり。 全く。ま-つたくヲ、轉シタルモノナルベシ。「——、一日かが-つた」

ま-つと。 も-つと。前ニ云ヘリ。「——、持-つてこい」

まるきり。 又、**まる-つと。** す-つかり。丸切りナリ。臺切ニ同シ。「——、知らない」

むち。 又、**むちきり。** さ-つぱり。無地。又、無地切ナリ。臺切ノ意ナリ。「——、知らない」「樂あ、——、きかない」

む-つくし。 一口も。無口ノ轉。「——、ゆわんに-やに」「——、でない」

む-つつり。 常に。絶えず。「——、わるいごどおしてる」又、少しもノ意ニ用フ。「——、讃めない」

め-つきり。 又、**め-つきりど。** は-つきりと。目利ノ轉ナルベシ。目ニ見エテ、顯然タルナリ。又、め-つきりト云フ。「この間あ、——、あ-つたがぐな-つた」

め-つたに。 滅多に。多クハノ意ニシテ、此ノ副詞ノ下ニハ、必ズ、否定ノ辭ヲ用フ。「——、來ない」「——、無い」

め-つたく-つたに。 滅多ニ同ジ。「——あ、あつげらんに-やに」

め-つぽれに。 又、**め-つぽれがに。** め-つぽうに。滅法界ニナリ。「——、高い」「——、つそい」強いナリ、「——、熱い」

めめくりほど。 爪糞ホドノ僅少ノ意。「——も無い」

もつこぐ。 又、**も-つこぐだま。** ど-つさり。盛括束ノ轉ナリ。盛リヲ、も-つト促ムルコトハ、盛相飯ナド云ヒテ、其ノ例アリ。くゝるヲ、こくるト云フハ、小獸ヲ捕ル爲ニ、其ノ出入口ニ、ひ-つこぐし（普通語ニハ、ひ-つくくしト云フ。）ト云フモノヲ掛ク。こぐしハ、括しノ轉ニシテ、こくるト共ニ、同義ノ他動詞ナリ。コノこくるノるヲ略シテ、も-つこぐトハ云フナリ。だまハ、前ニ云ヘルガ如シ。此ノ副詞ハ、其ノ意義ヲ知ラヌ老幼婦女ニ至ル迄、食物ノ、多量ノ形容ニノミ用フルヲ以テ、愈、其ノ義ノ、盛括束ナルコトヲ知ラル。「——、煮でく-つた」又、種々ノ野菜ヲ混合シテ、羹ニシタルヲ、も-つこぐ煮ト云フ。

やにぐれ。 遂に。「——、に-つてしま-つた」「——、こないに」皆暮（カイクレ）ノ轉ナルベシ。

らりど。 むやみに。「——、お-つきい」すらりとナドノ略カ。

ろぐに。 又、**ろぐすたまに。** ろくに。碌にナリ。すたまハ、考ヘ得ズ。「——、知らない」

四、雜

にがさま。 まさか。如何樣（イカサマ）にしてもノ略ナリ。「あの人あ、——、そんなごどあしまい」

にがさま。 いかにも。如何樣ニ考ヘテモノ意ニテ、前ト同語異義ナリ。又、にがにもト云フ。「——、お-つし-やる通りだ」

にがなごんだて。 又、**にがなごどにも。** どんなにしても。「——、子供お、にちめるぢ-やない」「——、おやちおにで、に-つたそおだ」此レハ、甚シキ事ニモノ意ナリ。

に-つり。 又、**に-つりのごんて。** い-つそ。寧（イッソ）の事で

ナリ。「――、こなに方あよが―つた」

かだて。 素より。肩から。「――、なに」素ヨリ無イト定レル意ナリ。コレヨリ、心ノ儘ナラヌヲ歎ク副詞ニ用ヒラル。「――、書がんに―やに」「――、わがんなくてこまる」又、其ノ置所ヲ變ヘテ、下ノ如ク云フコトアリ。「上手書がんに―やくて、――、おもしろぐなに」

ただもの。 わけもなく。唯物ナリ。「このおぼごあ、――、さかなに」「――、酸つかに」又――にト云フ。

たどには。 譬ひニ同シ。「――、有―つてもだめた」順德院ノ御製ニ、ながらへて、たとへば末に、歸るとも、うきはこの世の、都なりけりト詠マセ給ヘルたとへばニ仝シ。

ぢ―よれや。 又、**ぢ―よれやが。** 定めて。定やかナリ。

コノやハ、必やノやノ如ク、下ノかト共ニ、疑問辭ナリ。「――、んまがんべ」「あすあ、――、寒がんべ」

て―つきり。 たしかに。的切ナルベシ。「あにづあ、――、盗人た」

どれし。 又、**どれしか。** 又、**どれしこれし。** どおせ。「――、だめた」「――、ねんから」行くからノ意。

なし―にが。 わけもなく。「――、こ―つちあえに」「――、徒然た」

なち―よんして。 又、**なち―よにして。** どうして。何條にしてナリ。「――、おまにわがんべに」「――、たかがれべに」「――、川こしたらよがんべ」

なんしろ。 なにせ。何せよノ轉。「――、んまぐなに」

なんだが。 どうやら。「――、んまぐなにやつた」「これあ、――、おがしい」

なんてもかんても。 何でも彼でもナリ。「――、持―つてこに」「――、無ぐした」

なんとく。 どうしても。「――、よごすもんてなに」「なんぼまつてでも、――、こなに」

なるほど。 いかにも。「――、遠に」「――、そおた」

まぐれに。 偶然。紛れにノ轉。「――、中―つた」

や―つぱり。 又、**やぱり。** 又、**や―つぱし。** やはり。「――、そおた」

よもや。 よも。よもハ、文語ノよもニ同ジク、やハ、歎辭。「――、あれてあ、あんまにど思つた」

りんし。 又、**りんしが。** 却つて。「この方あ、――、んまに」「こだづに當―つたれば、――、あだまあやめる」「――、こまる」コレハ、連次ノ轉ナルベシ。――んまにハ、一ッヨリ二ッ、二ッヨリ三ット、漸次旨イ意ナレバナリ。他ノ使用ノ場合ヲ考フルニ、皆然リ。コノ詞ハ、頻リニ用ヒラル、副詞ナリ。

第七、關係詞

一、接續詞

げんても。 又、**げんども。** けれども。「そおゆ―つた――、さかなに」「に―つた――、おそが―つた」

さがに。 ですから。又、わけ。境ハ、物ノ限リノ所ナレバ、事物ニ限界ヲツケテ、其ノ筈ト云フ意ナルベシ。「そおゆう――て」「そおた――て」「仕方もなに――て」「私あ參上する――て」コレラ、概ネ、老人ノ使用語ナリ。羽前ノ中部ニテハ、之ヲさげト云ヒ、越後ニテハ、すけト云フ。

しかしなから。 又、**でも。** けれども。「――、おがしいなあ」「――、知らなが―つた」

りれゆうごんてあ。 そういう事なら。「――、にげばよが―つた」

りたても。 又、**りんしにも。** それでも。「――えに」

りんし。にあ。又、**りれゆうどぎあ**。そんなら。又、それぢーやあ。「——、にんべ」「——、えに」

りんだから。それだから。「——、こまる」

りんだら。それなら。又、さやうなら。人ヲ送リ出ス時、人ニ別ル、トキナド、「——まつト云フ。サヤウナラマヅノ意。

て。も。ども。「聞いだげん——」「見だげん——」

ながら。又、動詞ノ連用言ヲ重用ス。ながら。「食ね——、物おゆう」「くね〳〵、物おゆう」「見い〳〵、書ぐ」「聞ぎ聞ぎ、ねく」

二、後置詞

ね。を。名詞ナドニハ、稀ニハ、をニ近キ音アレドモ、後置詞ニハ、絶エテ、をノ音ヲ存セズ。皆、おト云フ。是レ、此ノ書ニモ、皆おヲ用ヒタル所以ナリ。

かな。がのを。かなハ、即チ、がのをノ轉。「お菓子、十錢——、呉ーりぢーよつぎーやに」

がら。より。「途中——、歸ーつてきた」

がらみるど。又、**よりも**。より。「それ——、こーつちーやえに」

さ。又、**ちーや**。へ。に。「東京さ、ねく」「どごさ、置ねだ」ちーやハ、どごさ、こごさ、そごさノ如キ詞ヲ促メテ、どーつ——、こーつ——、そーつ——ト云フ。「こーつちーや來ね」「そーつちーやねけ」コノさハ、方向ヲ示ス中古語、さまノ略ナルコト前ニ云ヘリ。

しーにあ。にては。又、では。「そん——、こまる」「そん——、たがね」

たて。とて。とてノ轉。「見だ——、だまーつてる」「ねーつたがら——、來なね」

だて。とて。とてノ轉。「おれたがら——、知ーつてる」

ちーう。といふ。といふノ約音ノ轉ナリ。古言ニハ、とふ、ちふ、てふト云ヘル詞アリ。「なん——が」「なん——人たべか」「來ね——が」

ぢうに。といふに。「來ね——、きもしなね」「手習しろ——」

ぢうわ。又、**ぢーや**。又、**ぢーやあ**。といふは。「無ね——、おがしい」「おれに、來ね——なね」

な。の。「どおゆう——」「見る——が」

なあ。のが。「見る——、うだでね」

に。又、**なに**。のに。「こかねに寒ね——、來てくたーつて」「とおゆうなにわ、おしい」

三、拔萃詞

あ。は。稀ニハ、わト云ヘドモ、多クハ、わト云フ。

春——、えね」「きーよお——、天氣た」「おら——、知らなね」

さね。又、**だげ**。だけ。「それ——、ゆーつとげばえね」「あそご——、見どげば澤山た」

さねも。さへ。「かねづ——、しとげばえね」

しーねーつしーや。ましたよ。せしあれあノ轉ニシテ、せハ、見たせ、聞いたせナドノせにシテ、しハ、例ノぬしノし、あれあハ、物ヲ指シテ、あれはト云フナリ。「人あ來た——」「おぢだ——」「あねづてあ、なねちう——」

ばーつかし。ばかり。些少ナルヲ云フトキ用フ。「これ——あ、やちんにーやね」

四、疑問詞

かし。ですか。ますか。「そお——」「ある——」

かなし。がしニ同ジ。

ござりもれすか。ござりますか。

ごり。又、**どんし**。ですか。「そお——」コノ二語、共

ニ、がしノ甚シク轉シタルモノナリ。又、感辭ニモ用フ。

たべか。でせうか。「なん――」

たべが。でせうか。「むこおに見えるなあ、人――」

べに。か。「こごあ、どごだ――」

べが。又、**べがなし。**せうか。「よがん――」

五。反動詞

べに。もんか。「何、こまん――」「**なし**ーに來――、あの」

第八、感歎詞

あ。あ。「來たが――」「讀んたが――」

あの。「何こまんべ――」「何知ーつてべ――」

あらし。あら。「――、早にごど」主トシテ、婦人ノ語。又、コノ語ヲ、あれですト、物ヲ指示スルトキニモ、用フルコトアリ。「――、あにづよし」あれようしノ略ナリ。

いいは。ええ。「――、やがましい」「――、うだでにど」コレモ婦人ノ語。

にやあ。やあ。「――、大變た」

にやはや。さて〳〵。言海ニ、いやハ、感動詞ニテ、いハ發語 驚歎スル聲ナリト云〳〵リ。はやハ、吾孀はや、君はや、われはやナドノはやニテ、いやト同ジク、亦感歎詞ナリ。「――、こまーつたごんた」

れれ。おお。「――あづに」

れれや。はゝあ。ナルホドト、合點シタルヤウノ時ノ語ニシテ、婦人主トシテ之ヲ用フ。「――、そおたでは」「――、そおたぢらは」

れらは。あら。コレモ婦人ノ語。「――、こまーたつたごんた」「――、なんたべか」又、重ネテ、おらは――ト云フ。己等はニテ、意外ナル事物ニ逢ヒテ、「己等にはどうしやう」ト驚ク詞ナリ。

きーよれしたり。又、**きうしたり。**又 **これしたり。**これはーしたり。驚歎ノ時、發スル聲。「――、えにもーつたなあ」

これわ〳〵。これは〳〵。「――、おめつらしいお客様」

これわしたり。これは〳〵。「――、えになた」又、名詞ニシテ「――ど、思およおな物あなに」

ごり。又、**どんし。**ですか。「そお――」コノトキハ、――ノ上ノ語尾ヲ揚グ。

さあ。さあ。「――、大變た」此ノ語、又、人ヲ誘フニ用フ。「――、にけ」「にけ、――」又、誘フ意ノさあヲ、せにト云フ。「せに、にけ」「にけ、せに」ノ如シ。又、下ノにノ音ヲ略シテ、「見ろせ」「しろせ」ナドフ。云さあ見ろ、さあ爲ヨノ意ナリ。

うら。すわっ「――、大變た」

ちーに。「見ろ――」「しろ――」「おれあ知らながんべ――」見ろ――ハ、見るがよい、しろ――ハ爲ルがよいト、云ヒ捨ツルヤウノ意ナリ。

なあ。ね。「――、よがんべあ、おらあどごにーつて見ろ」「ね、善いでせう、わたしのう、ちへ、往ーつて見なノ意」「寒に――」「早に――」

なるほど。いかにも。「――、結構た」人ト對話ノ際、話ス人ノ詞ヲ、然リトウナヅクトキ、――、又、なあるほーとト云フハ、コノ感歎詞ナリ。

のんし。又、**なんし。**なもし。京都邊ニテ、詞ノ首ニ云フ聲ナレドモ、方言ハ、下ニ用フ。「そおた――」

はあ。へい。「――、なるほと」「――、奇麗た」

ははあ。へへい。「――、うづぐしい」

ふん。へい。「――、おん見ーやに」ふトんトノ音ヲ、明瞭ニハ云ハズ。二音トモ、鼻ヨリ幽カニ短ク發ス。

んう。コレモ、鼻息ヲ以テ發スル音。「――、なるほと」

ははは。へ――に。「――、ひとに」

ははれしたり。又、ははあしたり。へへい。「――、これわえに」

んたら。んう。「――、どれ」「――、どんなものた」

んなに。はい。「――、そおたし」

えに。はい。又、へい。おおト答フル聲ニ同ジ。在村ノ語。

第九、句

あがにどこまてし―つてる。奥迄も知―つてる。秘密の事迄知―つてる。其ノ事ニ關シテ、奥ノ底迄知リ居ル意。あかハ、顯ニテ、赤屬(アカハダ)と云フモ、顯屬(アカハダ)ノ義ナリ。即チ、内部ノ秘密等ヲモ知ルコトナリ。

あち―やこち―やなどどれゆう。又、あ―つち―やこ―つち―や。ト促メテモ云フ。あちらこちらな事を云ふト云フヲ、促メテ云ヘルナリ。矛盾(ムジュン)シタルコトヲ云フ義ナリ。

あづんた。集(アツ)―つたコトナリ。「金あ――」「人あ――」

にがなどどもあるんたあ。又、にがなどどもあ―つたんたあ。如何にしても。如何ニワルイ事ハアルニシテモ、コレニハ如カジト云フ程ノ意。「――、おぼごおにちめるぢ―やあ無にごど」

にだだまらんに―やに。安坐して居れない。「氣あもめで、――」

になになんなに。居なければならぬノ轉。ニノ例多シ。爲(シ)なになんなに。往(エ)かなになんなに。

にまに。又、にまにい。今ニナリ。人ト別ルヽトキ、子供ノ、さいならト云フ挨拶ニ用フル語。今ニ又共ニ遊バンナド云フ意ノ略ナリ。

れあすう。お明日ニテ、大人ノ、夜、人ト別ル、時云フ挨拶ノ語。コレモ、明日重ネテ御目ニ掛ランナドノ略ナリ。

れになにごどれした。たまらない事をした。我手ニハ、了(オ)ヘヌ事ヲシタル意ナリ。「おれわ――」

れ―つか―つとぐ。おさへとく。押(オ)―つ交(カ)―つて置くナリ。「も―つかにるがら、――」

れつけだよれなどどれゆう。拵へたやうなこゝを云ふ。人ノ心ヲ迎ヘテ、我心ニモ無キ事ヲ、都合ニッケテ、良キ加減ニ云フトキ、嘲リテカク云フ。「あにづあ、――奴(ヤツ)た」

れてぎなに。又、れてぎ―やに。お進みなさに。方言、出(デ)るヲできると云ヘバ、おできなさい。又、おできやれヲ轉ジタルナリ。進ミ出デヨノ意ナリ。コノ語ノ成立ハ、語典ノ部ニ、既ニ云ヘリ。

ればんにな―つたなし。お晩になりました。夕方、又ハ、夜、人ニ逢ヒタルトキ。又ハ、他ノ家ヲ訪問シタルトキ云フ語。

れめしにな―つた。御飯(ゴハン)ができた。「――がらこに」

れらあぢ。又、れらぢ。又、れらどご。又、れらあどご。わたしのうち。「――に、に―つて見ろ」

かだあばる(四ラ)　肩が凝(コ)る。肩が張るナリ。

きあばな―つぢ―や。氣が離れたノ轉。暫時、心ノ離レタルコトヲ

きにかげる(一カ下)　さざはりに思ふ。心ニ留メテ、心配スルコト。「あれわ、――たづた」

き―やる。きなさる。來(キア)有るノ拗音ナリ。コノ類ノ語、數多アリ。何し―やる、(何しなさるノ意)何いやる、(何言ひなさるノ意)書き―やる(書きなさるノ意)等皆同ジ。關西地方ニ、言ひを―つた、爲(シ)を―つ

たナド云フ、居ーつたヲ、現在ニ云フニ似タリ。「もはや、——頃た」之ヲ否定ニ云フニハ、さーやんなにト云フ。コノ語ハ、くる、こなにト云フヨリハ、少シク尊ビ云フ語ナリ。

くにしる。 氣ざはりにしる。「人にゆわれだごど、——」「つまらなに事、——」

ござりもれさん。 又、ござりもれさなに。ございません。「そおて——」御座り申さんナリ。又、甲、物ノ有無ヲ問フ時、乙、無シト云フコトヲ、——ト云フ。

こたわーつた物。 念の入ーつた物。障ノ字ヲ、こだはるト訓ミテ、サ、ハルコトナリ。方言、之ヨリ轉ジテ、小シ手答アルコトヲ云フ。「何も、——あなに」

さにづがになごど。 それしきの事。其奴ヲ、そいつト轉シ、又、そヲさトシテ、さにづト發音シ、がになハ、位なノくらヲかト約シ、おヲにト轉ジタルモノナレバ、其奴位な事ノ轉ニシテ、賤メテ言フ語ナリ。「——、かもおごどあなに」「——、おれわ知らなに」

さーつてる。 してある。「鍋のふたわ、——」

しはれす。 しはうだい。爲放手ノじゆヲ、すト約シテ、カク發音シタルモノナリ。「わるにごどの、——しる」又、しはおたにトモ云フ。爲傍題ナルベシ。

しんだ。 打撲等ニ依リテ、皮膚ニ、紫黑色ノ班點ノ生ズルコト。「人にしなかれで、——」

しんにーやにりさ。 知れないぞよ。「そおゆうごどわ、有ーつかも、——」「往くがも、——」

うれたともなんともし。 そうですト諾スル語。しハ、例ノ、うしノしナリ。

うんなに。 そうぢーやない。そうないヲ撥ネテ、轉シタルナリ。「それわ、——」

たたぐりたでらんにーやに。 たたぐりハ、手手繰ニテ、手ニテサバクナリ。始末ヲ爲盡セヌコト。「あまりめんとおて、——」

たでらんにーやに。 きれない。立てられないナリ。「食に——」「書ぎ——」「見——」

ちーよれとして。 ぢーつとして。ちーやんとしてノ轉。「——にろ」

ちーよれどうご。 ぢきとこ。ちーよーつとそこノ轉ナリ。「——た」

てがにあれよばなに。 手が及ばない。手甲斐が及ばないノ轉ナルベシ。「おれにわ、——」

てぼろかにになる。 からぶりになる。手ぼろきノ延言ナリ。ぼろきハ、他動詞ノ部ニ云ヘルガ如ク、振ヒ落スコトニテ、手ぶり即チ徒手ノ義ナリ。「持ーつてだ物、取らーりぢーに、——」

どかにな。 どんな。どれぐらねなノれヲ脱シ、ぐらヲ約メテがトシテ、轉ゼルモノナリ。「——ごんた」「——もんた」コノ例、尙ホアリ。それ位にヲ、そかにニト云フ。「——、んまにが」これ位にヲ、こかにニト云フ。「——、一盃くたーつて、お笑止た」あれ位にヲあかにニト云フ。「——、えにどごろたどわ、思わながーつた」

どーつくから。 とうから。疾くからヲ促メタルナリ。

どんぢーやぐなに。 さしつかひない。頓着無いナリ。「おそぐども、——がらこに」「——んぢーにも、——」「そんぢーに、さーつぱり、——」

どんぢーやぐしなに。 苦にしない。「きたなぐども、——」「着物なと、さーつぱり、——」

なぢーよーつても。 どうでも。何云てもヲ促メタルナリ。「病氣あなおーつて、——なに」又、なぢーよにて

もト云フ場合アリ。「――えねがら、衣裳こしーやーつてくろ」

なぢーよにして。 又、**なぢーよんして。** どうして。何云にしてノ轉。「――、されべね」「――、たかがれべね」

なぢーよれにしてる。 どうしてる。「この間、――が」

なんだい。 又、**なんだし。** なんですか。「よばりなーつたなあ、――」(およびなすたのは、なんでござりますかノ意)

なんだべか。 なにをなさるですか。「――、うだでねごど」(何をなさるですか、いやです事ノ意)

なんちーゆう。 なんといふ。なんといふノ約轉。「――わるね道なんたが」「――ごんたべか」

はさみあげられれた。 人混雜シテ、我身ヲ、動カスコト能ハザル形容。

はーつぼねになーつてかしーにく。 骨惜しまずに働く。初骨(ハツホネ)になーつて働く意カ。初骨ト云フ意ハ、骨ハ身體構成上、最モ必要ニシテ、身體モ之ニ依リテ、支持スルヲ得ルモノナレバ、此ノ語モ、其ノ家ノ中心トナリテ、働ク意ヨリ云フニヤ。

ひーつちかねる。 こねる。引違へるナリ。「腕――どわるね」

ひーつつりたんにーやね。 行渡らない。引吊足(ヒキツリダ)ら無いニテ、全體ニ行渡ルニハ、足ラヌ意ナリ。「どおもこんぢーねあ、――」

びんぼねなめ。 ばかな目。「――にあーつた」

申さば。不足をいへば。不足ヲ申サバノ略語。「大層えねげんても、――、少し小さね」

むしあつなく。 四 虫はわく。穀類ナドニ、虫生ジテ、綿ノ如キ線ヲ出シテ、數粒ヲ連ヌルコト。「この米

あ、虫あつなねた」

やだ。 又、**やんだ。** いやだ。「そんなごどあ、――」

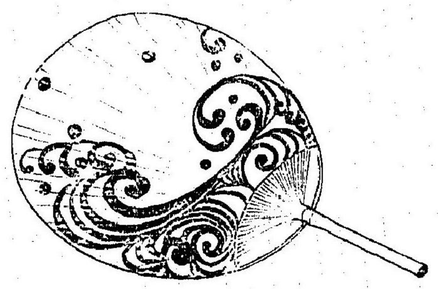
やんだけどは。 いやです事。「おらは、――」

よくり。 ようこそ。善くぞニテ、ぞハ、文語ノ係辭ナリ。「――、にかながーつた」

わりべね。 わるかちう。常ニハ、わるかんべね、又ハわりがんべねト云フ。

語彙 終

米澤言音考 終



明治三十五年九月二十日印刷
仝　三十五年十月　一　日發行

米澤言音考

定價金一圓

編纂者　山形縣米澤市關東町五千二百二十四番地　內田慶三郎

發行者　東京市京橋區南傳馬町二丁目五番地　目黑甚七

發賣者　新潟縣長岡町表四ノ町　目黑十郎

印刷者　東京市麹町區有樂町三丁目一番地　大西鍊三郎

印刷所　東京市京橋區弓町二十四番地　三協合資會社

著作權所有

發行所　東京市京橋區南傳馬町二丁目　目黑書店

特約賣捌所

米澤市	盛文堂書店	仝 長井町	風間五右衛門
仝	素月晨平	仝 寒河江	柿本書店
山形市	五十嵐書店	仙臺市	有千閣
仝	收野德太郎	盛岡市	便益堂書店
山形縣鶴岡町	小池藤次郎	弘前市	今泉書店
仝	日向源吉	青森市	今泉支店
仝 酒田港	中村太助	岩代福島町	上野屋彦太郎
仝	白崎善助	若松市	森萬作
仝	鈴木喜八	秋田市	成見書店
仝	伊藤彌七	大阪市備後町	吉岡平助

081991-000-1

818.25-U819y

米沢言音考

内田 慶三／編

M35

DAC-6995